

# 要点記録

会議の名称	市民参加推進会議ワーキンググループ（第2回）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成24年8月21日（金）午後6時00分～午後7時55分		
開催場所	市民会館・萌え木ホール3階 A会議室		
出席者	委員長	坪郷 實	委員
	副委員長	浅野 智彦	委員
	委員	遠藤 圭司	委員
		杉本 早苗	委員
		福井 高雄	委員
		高橋 雅栄	委員
		天野 建司	委員
		白井 亨	委員
		馬場 彬暢	委員
		五島 宏	委員
		山下 光太郎	委員
		河野 律子	委員
欠席者			
事務局	企画政策課長	高橋 啓之	
	企画政策課長補佐	竹田 怜史	
	企画政策課主任	工藤 真矢	
傍聴の可否	○	一部不可	不可
傍聴者数	0人		
【会議次第】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 第4期推進会議の論点整理について</li> <li>3 次回推進会議の開催日について</li> <li>4 閉会</li> </ol>		
【会議結果】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 第4期推進会議の論点整理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 資料2「審議会等における傍聴者の意見・提案等の取り扱い状況」について事務局から説明を行った。資料は次回推進会議で傍聴環境についての提言をまとめる際に参考資料とする。</li> <li>(2) 『公募委員の募集について』に関して議論を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○無作為抽出による「公募市民登録制度」の導入</li> <li>○自発的な公募委員登録制度の導入</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> <p>(主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・審議会等の一覧を市民がわかりやすい分類（環境、福祉、子ども等）にまとめて、インターネットのみでなく書類でも配布した方が公募委員に応募する人のモチベーシ</li> </ul>		

ョンアップにつながる。

- ・今まで実施している公募と無作為抽出による「公募市民登録制度」を組み合わせ取り入れたらどうか。
  - ・無作為抽出の課題としては、選出された委員が問題を知らない場合に、基本的な部分のレクチャーを事務局が行うため、議論の方向性が事務局側に偏ってしまう危険性がある。
  - ・市民参加の幅を広げる、無関心層を取り込むという意味で無作為抽出はいい方法だ。
- ⇒無作為抽出における問題点は考慮しながら、「公募市民登録制度」を何らかの形で導入した方がいい。（次回の推進会議でもう一度議論する。）

(3) 『公募委員の選考基準と選考について』に関して議論を行った。

- 公募委員の選考委員会のあり方について（第3者を入れる。傍聴可能にする。議事録を作成し公開する。）
- 論文最終審査で僅差の場合は抽選で行うか。
- 提出論文を公開するかどうか。

(主な意見)

- ・公募委員の選考に当たっては、設置される委員会の分野に明るい所管部長が入るのは当然のことだと思う。
- ・選考委員会の公開は難しいのではないか。問題を解決するために審議会が立ち上がりその趣旨に沿って選考するので、それを選ぶ側の負担考慮も必要ではないか。
- ・選考過程を公開することによって、透明性・公正性を担保すべき。応募する方にとっても満足する。
- ・論文は匿名にし、選考委員会を公開にする。
- ・論文を名前も含めて全部公開にすると、応募者のハードルを上げてしまう危険もある。
- ・論文を会議資料として配布すれば、一般に流出する危険性がある。公開されればうかつなことを書かなくなるだろうという予防効果はあるが、いい内容も悪い内容も全て公開されてしまう。
- ・100%全員が納得する方法は難しいが、選考過程の不透明な部分をどこまで小さくできるかが課題。全く見えないから問題になっている。落選した人が今より納得できるための方法を探ることが必要。
- ・落選した人に対して、どのような方が合格したのか等フィードバックを丁寧にする方が先決ではないか。
- ・落選した人の不満を少しでも小さくすることは大事だと思うが、そのためにどこまでコストをかけるのかは課題である。

- ・落選した人へのフィードバックとして、形式的な説明よりも「上位〇%まで残りました。」と具体的に書かれた方が多少不満は和らぐのではないか。
- ・意見が一致しないのでは具体的な提案には難しいので、論点整理をしておけば、今後の議論に役立つのではないか。

(4) 『子ども家庭の世代の参加 障がいのある方の参加のための環境整備について』に関して議論を行った。

- 保育士や手話通訳士の設置について、今までより設置しやすい方法がないか。
- モチベーションを高められるような工夫が必要
- IT環境を使って新たな参加の方式又は情報発信ができないか。

(主な意見)

- ・審議会等を行う場合には、バリアフリー化の配慮された場所で行うこと。
- ・子育て世代に関連する審議会には保育士を設置しているが、それ以外の審議会でも出たいと思った方が参加できるような仕組みが必要である。
- ・市から積極的に意見を聞きに行く姿勢が重要
- ・開かれた審議会にするためには、ネット中継やSNSでの書き込み等の仕組みを工夫する。
- ・一方的な情報発信ではなく、フェイスブックなど若い人のやり方、ニーズをもっと取り入れる姿勢が欲しい。
- ・フェイスブックは実質的な効果としては疑問がある。慎重に考えた方がいいかもしれない。それよりも市民同士の情報共有の量と厚みを重要視した方がいいのではないか。

(5) 『青年の市民参加について』に関して議論を行った。

(主な意見)

- ・無作為抽出の「公募委員登録制度」導入に当たっては、厳密に無作為抽出をすると、人口比に従って抽出されるため高齢者の数が圧倒的に多くなってしまう。比率を逆転させ、若者が多く抽出されるようなウェートのかけ方についても議論してはどうか。(性別についても同様)
- ・具体的な数値がない中で議論しても実現性にかけるため、市民討議会等実際にかかった費用を知った上で議論した方がいいのではないか。
- ・ターゲットを絞って方法を考えた方が、漠然とした提案ではなく具体的な提案ができるのではないか。

⇒今までの問題提起や調査の分析結果を浅野副委員長がとりまとめている。次回推進会議にて、「青年の市民参

加を広げるための具体的な提案」について議論する。

(6) 他に提起したい議題について

- ・公募を取り入れていない審議会の調査

3 次回会議の開催について

- ・平成24年11月9日（金）午後6時00分から
- ・今までの議論を考慮した上で、委員長、副委員長が提言と論点整理の原案となるものを作成し、次回の推進会議において委員全員で議論する。意見の一致があれば提言とする。

4 閉会

**【提出資料】**

- 1 市民参加推進会議（第1回ワーキンググループ）要点記録【資料1】
- 2 審議会等における傍聴者の意見・提案等の取扱い状況【資料2】

# 要点記録

会議の名称	市民参加推進会議（第1回ワーキンググループ）		
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係		
開催日時	平成24年7月6日（金）午後6時00分～午後8時7分		
開催場所	前原暫定集会施設1階 A会議室		
出席者	委員長	坪郷 實	委員
	副委員長	浅野 智彦	委員
	委員	遠藤 圭司	委員
		杉本 早苗	委員
		福井 高雄	委員
		高橋 雅栄	委員
		河野 律子	委員
	白井 亨	委員	
	馬場 彬暢	委員	
	五島 宏	委員	
	天野 建司	委員	
欠席者	山下 光太郎 委員		
事務局	企画政策課長	高橋 啓之	
	企画政策課長補佐	竹田 怜史	
	企画政策課主任	工藤 真矢	
	企画政策課主事	津田 理恵	
傍聴の可否	○	一部不可	不可
傍聴者数	1人		
【会議次第】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 第4期推進会議の論点整理について</li> <li>3 次回推進会議の開催日について</li> <li>4 閉会</li> </ol>		
【会議結果】	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 第4期推進会議の論点整理 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 議論の進め方について議論を行った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの委員からの提案について、テーマを絞って提言に向けて議論を詰めていく作業とそれ以外の今まで会議で出た意見等については、今後の参考になるように整理する。</li> <li>・参加の形は、市政直接参加型（審議会等）と生活密着型（イベントや自治会等）と大きく2つに分けることができる。生活密着型はある程度参加の実績があるため、市政直接参加型についてまず議論を進めていく。</li> </ul> </li> <li>(2) 審議会傍聴環境の整備に関して以下の点について議論を行った。</li> </ol> </li> </ol>		

- 提案シートを各審議会に常設することを規定等で明記するか。
- 各審議会に参加の手法の一例として例示し、取り入れるかは審議会の中で決定するか。
- 意見提案シートで出された意見を会議の中で必ず取り上げるかとするか。
- 取扱いは各審議会にまかせるか。

(主な意見)

- ・提案シートの取扱い方を決めておかないと、議題にされないでただ出すだけで終わってしまう。
- ・規定に明記しないといつかはなくなってしまう恐れがある。
- ・提出された意見を必ず反映するとまでは言い過ぎかもしれないが、必ず議題として取り上げることは必要。
- ・提案シートは常設し、さらにその提案を取り上げる時間を会議の中で設けるようにすれば、意見を出す方のモチベーションもあがるのではないか。
- ・意見を取り上げるかどうかは各審議会の中で決めるが、委員全員に提案シートが配付されることが大事。
- ・委員も傍聴者の意見を知りたいということがあるので、提案シートは傍聴者全員に配布した方がいい。
- ・随時意見を聞くのも大事だが、意見を聞くタイミングが重要ではないか。
- ・市民参加のスタンダードとして審議会の進め方を紹介し、各審議会がどの参加手法を取り入れていくのか、委員自身が自主的に考えていく、事務局も参加して考えることが多様な市民参加を進める上で重要ではないか。
- ・会議に来られなかった人も意見が言える制度にしたい。
- ・意見を聞く仕組み、いろいろな手段があることを審議会の冒頭で紹介し、それについてどうするか各審議会は必ず決定するように審議会に周知する。
- ・実行性がある方法で提言をあげていくことが重要

### 3 次回会議の開催について

- ・平成24年8月21日午後6時00分～（ワーキンググループ第2回として行う。）
- ・資料1の7(2)公募委員の募集についての論点を進める。

### 4 閉会

## 【提出資料】

### 1 第4期推進会議の論点整理【資料1】

総務企画委員会  
24陳情第7号資料

平成24年5月14日  
企画財政部企画政策課

審議会等における傍聴者の意見・提案等の取扱い状況

平成24年3月31日現在

審議会名称	導入時期	導入経過	意見・提案の取扱い	実績 (過去3年間)	およその字数 (資料は除く)
新庁舎建設基本計画 市民検討委員会	平成23年6月	平成23年度第1回委員会 (H23.6.30)において事務局から提案され、「意見・提案シート」を導入	原則、記名式として受け付ける。 正式資料として全委員及び傍聴者に配付	7件(7回開催)	100～150字：1件 300～350字：1件 650～700字：1件 800～850字：2件 1000字以上：1件 2000字以上：1件
東小金井駅北口まちづくり事業用地整備 活用計画策定委員会	平成23年8月	平成23年度第1回委員会 (H23.8.18)において事務局から提案され、「意見・提案シート」を導入	原則、記名式として受け付ける。 正式資料として全委員及び傍聴者に配付	2件(7回開催)	300～350字：1件 450～500字：1件
児童館運営審議会	平成23年10月	平成23年度第2回審議会 (H23.10.28)において会長から提案され、「傍聴感想メモ」を導入	参考として審議会委員に配付 審議会の傍聴に関する感想として扱い、個別回答はしない。	なし(2回開催)	
行財政改革市民会議	平成16年1月	平成15年度第2回市民会議 (H16.1.19)において委員から提案され、「傍聴者の意見・感想等 記載用紙」を導入	委員全員に配布 対応については会長一任	3件(8回開催)	100字未満：1件 100～150字：1件 200～250字：1件
男女平等推進審議会	平成15年11月	平成15年度第2回審議会 (H15.11.18)において事務局から提案され、「傍聴者意見用紙」を導入	会長判断により必要に応じて審議会の参考とする。 意見に対する質疑応答は行わない。	なし(12回開催)	
(仮称)貫井北町地域 センター建設市民検討委員会	平成22年11月	傍聴者からの希望があったため、平成22年度第5回委員会 (H22.11.10)において事務局から報告し委員会に諮り、「質問シート」を導入	質問に対する検討結果を添えて正式資料として全委員及び傍聴者に配付 議題として取り上げるかは委員会の判断	10件(14回開催)	100字未満：6件 100～150字：4件